

第5学年学級活動(2)指導案

日 時：令和〇年〇月〇日(〇)〇校時

学 級：第5学年〇組〇名

場 所：5年〇組教室

授業者：〇〇 〇〇〇

1 題材 「著作権は誰のもの？」

(出典：「はじめよう！デジタル・シティズンシップの授業」を参考に改変)

学級活動(2) イ よりよい人間関係の形成

2 題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童には、休み時間などを使い、絵を描いたり、色を塗ったりして友達と交流をする児童がみられる。係活動の中には、友達が描いたスケッチをコピーして配付する塗り絵コンテストを企画することもあった。自分が制作したものには権利が発生していることにも触れ、自分の身近なところにも著作権が発生していることを理解できるようにしたい。

(2) 題材設定の理由

最近、小学生などの低年齢のうちからスマートフォンを使う機会が増え、日常的にSNSを使っているという児童も少なくない状況である。しかし著作権についてきちんと理解している児童は多くないと考えられる。その結果、スマートフォンを扱う中でSNSを経由して、知らず知らずのうちに著作権侵害をしてしまう児童が後を絶たない現状がある。著作物は誰のものかを確認し、著作者の立場から自身の著作物の扱われ方を考える活動を通して、どのように著作物と関わっていくとよいか、具体的な行動を考えることができるようにする。

3 評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、健全な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する諸課題を認識し、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自主的に課題解決に取り組み、他者と信頼し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。

4 本時のねらい

著作物は誰のものかを確認し、著作者の立場から自身の著作物の扱われ方を考える活動を通して、どのように著作物と関わっていくとよいか考え、著作権を尊重した行動をとることができるようにする。

5 本時のキーワード

- ・著作物

撮った写真、動画や音楽、小説、絵、マンガ、イラスト、工作、俳句などの作品のこと。

頭の中で物語や音楽、作品などを頭の中で考えただけでは、著作物ではない。

- ・著作者

著作物を作った人で、著作物をどのように扱ってほしいかという権利(著作権)をもっている人。

- ・著作権

自分が創作した作品を、他人にどう使われたいか、本人が決められる権利。

オリジナルの作品を作ると、子供でも作った著作物には自然に著作権が発生する。

6 本時の展開

時間	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿
導入(つかむ)	<p>1. 身のまわりの自分と違う人が作ったものがどこにあるか考える。</p> <p>【著作物】の言葉の定義を確認</p> <p>2. めあてを示す。</p>	<p>○教室の写真を書したのを見ることで、自分と違う人のものが山積している実態を把握できるようにする。</p> <p>○著作物と著作物ではないものをはっきり児童に示す。頭の中で思い描いたものは著作物ではないなど、著作物に該当しないものについても説明する。</p>	
わたしたちは、世の中にあるたくさんの著作物と、どのように関わっていくとよいのか考えよう。			
展開(さぐる)	<p>3. 例を示し、著作権の所在を探る。</p> <p>【著作者】【著作権】の言葉の定義を確認</p>	<p>○アニメのワンシーンを提示し、この著作者はだれで著作権はどこにあるのか、その所在を確認できるようにする。</p> <p>○著作物を作った著作者は誰なのかを考えることで、「著作権」の言葉を確認できるようにする。</p> <p style="text-align: center;">感情を確認</p> <p>○なぜ著作権があるのかについて考えられるようにする。</p> <p style="text-align: center;">原因を特定</p>	

(見つける)

4. 図工で制作した絵や工作を、他の人にどういう扱いをされたいか、三つの場面で考える。

対話のポイント

○難しい言葉なので、タブレットで調べてもよいこととする。

○自分が図工で制作した作品がどのように扱われるとよいのか考えさせる。三つの場面を想定し、その場面で自分の意見がもてるようにする。

対応を検討

<例>

展示、鑑賞されるとき	<ul style="list-style-type: none">・展示する場所を自分で決めたい。・展示中は、作品には触れにないでほしい。・いちばん作品が映えると思っている角度で展示してほしい。・クラスの中だけで展示してほしい。・勝手にカメラで撮影するのはやめてほしい。
手本として、他の人の参考にされるとき	<ul style="list-style-type: none">・事前に参考にすることを教えてほしい。・参考にした作品の名前と自分の名前を、作品の説明で載せてほしい。
他の人が自分の作品を紹介するとき	<ul style="list-style-type: none">・事前に作品を紹介するということや紹介する内容を教えてほしい。・自分の作品と名前は正しく伝えてほしい。・作品のよいところを紹介してほしい。・インターネットで紹介するのはやめてほしい。

4. 学習内容に関連する動画を視聴する。

○作品についての思いや願いは、人それぞれことなり、その思いや願いは、本人に聞かなければわからないので許可(許諾)をとることが大切であることを伝える。

○著作物について、著作者の思いが様々であることを理解できるようにする。

<p>まとめ(決める)</p>	<p>5. 世の中にあるたくさんの著作物と、どのように関わっていくとよいのか、自分なりの考えを書く。 (タブレット上のワークシート)</p> <p>インターネットで行動する時の三つの合言葉を確認する。</p>	<p>○今日の学習で学んだことを振り返ることで、自分の作品や他人の作品をどのように扱ってもらいたいか、また扱っていくとよいか、今後の自分の行動につなげられるようにする。</p> <p>行動の準備</p> <p>○インターネットで行動する時は「立ち止まる」「(どうすればいいか)考える、(困ったときは)相談する」。</p> <p>○学び共有するため、今日学んだことを家の人に話をする。</p>	<p>自分事として捉え、日常生活へ適応について課題を認識し、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定しようとしている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>
-----------------	--	--	---